

## 令和 4 年度の管理地区（D 地区）における捕獲の実施結果

### 1. 実施方法

文化財保護法に基づく現状変更許可（文化庁許可）及び鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律に基づく許可を得たうえで、加害個体の捕獲による被害軽減を図ることを目的として捕獲を行った。

捕獲は、8 地区（精華、田原、東市、帯解、柳生、大柳生、東里、狭川 各地区）の管理地区（D 地区）内で行った（図 1）。

- ・ 期間：令和 4（2022）年 5 月 27 日～令和 4（2022）年 12 月 15 日
- ・ 捕獲手法：被害地周辺に箱わな、くくりわなを設置
- ・ 捕獲頭数（上限）：全 8 地区で 160 頭
- ・ 捕獲実施者（委託）：一般社団法人 奈良県猟友会

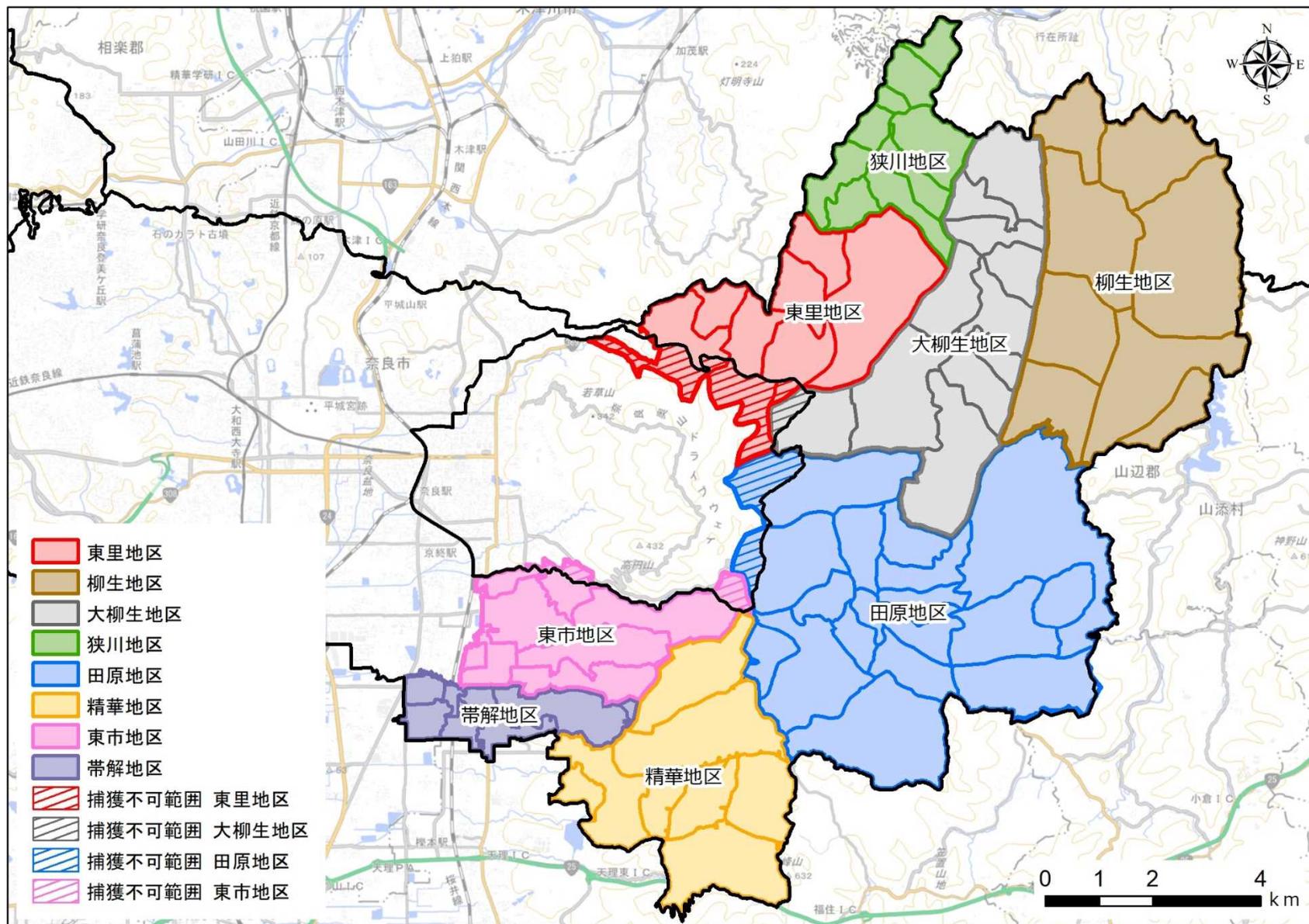


図 1 捕獲実施地区

## 2. 実施結果

### 2.1. 捕獲数

本計画における捕獲上限頭数は160頭で、メスが64頭、オスが96頭、合計160頭が捕獲された(表1)。令和4(2022)年12月15日に捕獲上限数に達した。

表1 雌雄別の捕獲頭数

地区	捕獲頭数		
	オス	メス	計
田原	22	15	37
精華	19	8	27
東市	9	6	15
帯解	1	0	1
東里	14	14	28
柳生	5	5	10
大柳生	18	7	25
狭川	10	7	17
計	98	62	160

令和4(2022)年度の最初の捕獲は5月28日で、6月から12月にかけて毎月10頭以上捕獲された。年度により捕獲開始時期が異なるものの、令和4(2022)年度は過年度に比べて8月から9月の捕獲頭数が多く、12月の捕獲頭数が少なかった(図2)。

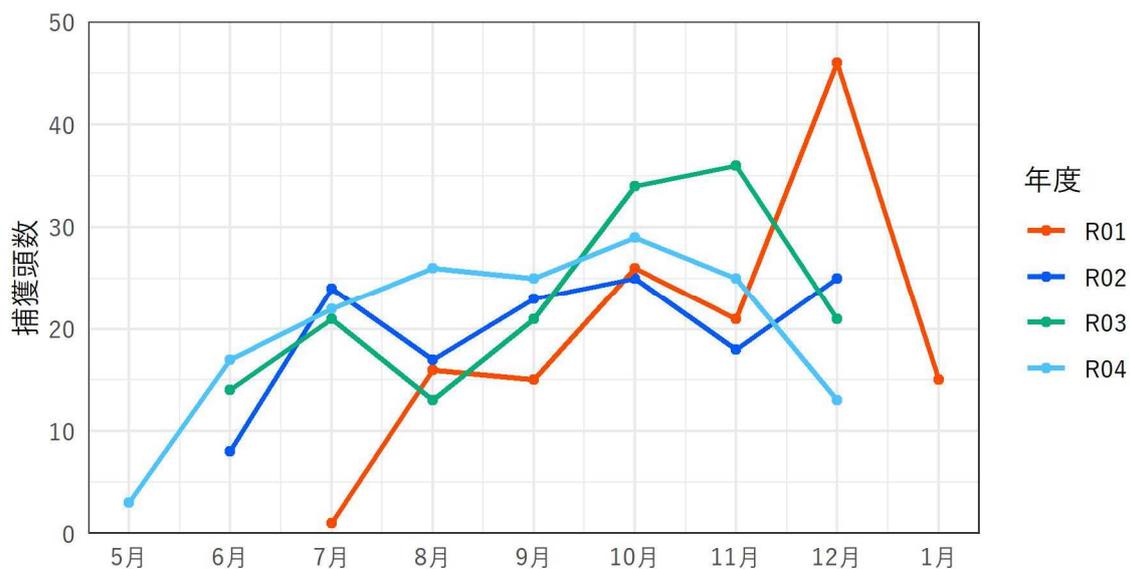


図2 月別の捕獲頭数の推移

## 2.2. CPUE（密度指標）

令和4（2022）年5月27日～令和4（2022）年12月15日を集計対象として、捕獲従事者から収集した捕獲作業の情報（わな管理表：最終頁「参考1」参照）からCPUE※（密度指標）を算出した。

7地区で箱わなは92基、足くくりわなは38基設置し、合計160頭捕獲された。各わなについて、わな設置期間及び捕獲数、わな稼働日数（わな基数×設置日数）、CPUEを表2、表3に、各わなのCPUEの推移を図3に示した。なお、わな近傍のネット柵等に絡まっていた個体が、令和3（2021）年度に2頭、令和4（2022）年度に14頭捕獲されたが、CPUEの計算からは除外した。

※ CPUE：Catch per unit effort. 単位努力量あたりの捕獲数。ニホンジカでは生息数に比例するの指標となることが知られている。CPUE=捕獲頭数／のべわな稼働日数

表2 対象期間中の箱わなのCPUE

年度	対象期間	捕獲数	設置わな数	のべわな稼働日数	CPUE	備考
R4	R4年5月27日～R4年12月15日	116	92	19,991	0.0058	
R3	R3年6月1日～R3年12月14日	101	78	11,038	0.0092	
R2	R2年6月12日～R2年12月27日	112	108	13,529	0.0083	
R1	R1年7月18日～R2年1月20日	92	70	11,550	0.0080	
H30	H30年5月31日～H31年3月11日	64	136	36,079	0.0021	参考値
H29	H29年7月31日～H30年3月11日	19	26	5,625	0.0034	参考値

※平成30（2018）年度以前は、のべわな稼働日数が過大であった可能性があるため、参考値として記載

表3 対象期間中のくくりわなのCPUE

年度	対象期間	捕獲数	設置わな数	のべわな稼働日数	CPUE	備考
R4	R4年5月27日～R4年12月15日	30	38	3,208	0.0094	
R3	R3年6月1日～R3年12月14日	57	60	3,066	0.0186	
R2	R2年6月12日～R2年12月27日	28	54	3,910	0.0072	
R1	R1年7月18日～R2年1月20日	48	43	3,322	0.0144	
H30	H30年5月31日～H31年3月11日	45	89	22,767	0.0020	参考値

※平成30（2018）年度以前は、のべわな稼働日数が過大であった可能性があるため、参考値として記載

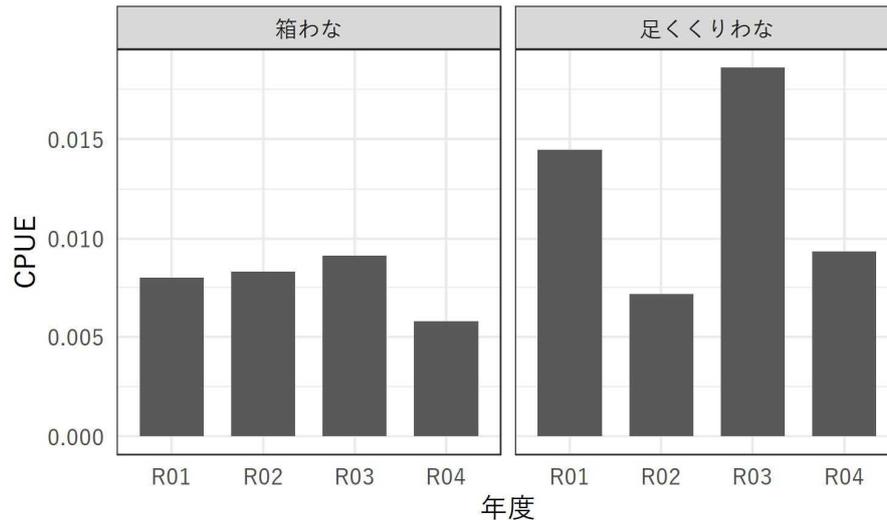


図 3 対象期間中の箱わな及びくくりわなの CPUE

令和 4 (2022) 年度の CPUE は、箱わなでは 0.0058 で、令和元 (2019) 年度から令和 3 (2021) 年度よりも低かった。くくりわなは 0.0094 で、令和 3 (2021) 年度よりも低く、令和 2 (2020) 年度と同程度の値となった。令和元 (2019) 年度以降、わな管理表の導入により、各わなの設置期間がそれ以前に比べ正確に把握できている。平成 30 (2018) 年度以前は、のべわな稼働日数が過大であった可能性があるため、参考値として記載した。

CPUE は対象地域の生息密度や、捕獲作業時の誘引餌の有無を受けることから、数値の単純な比較はできないが、参考として他地域の事例を挙げると、本計画対象地の周辺にあたる奈良県北西部 (大和郡山市、天理市、大淀町等) における平成 29 (2017) 年度のわな猟 CPUE は 0.12 であり (奈良県、2021)、兵庫県のある地域における箱わなと囲いわなにおける 1 年間の CPUE は約 0.005 (わな 1 基あたり約 1.83 頭 (坂田ら、2013) を 365 日稼働したと仮定した場合) であった。これらと比べると、奈良県北西部よりも低く、兵庫県のある地域と同程度の値であった。足くくりわなの CPUE については、大台ヶ原における足くくりわなの CPUE は、0.04~0.24 であり (環境省、2017)、この値と比べると低い値であった。

#### 出典

奈良県 (2019) 奈良県ニホンジカ第二種特定鳥獣管理計画平成 30 年 (2018 年) 度モニタリング報告書  
 坂田宏志・阿部豪・上田剛平 (2013) AI ゲートを用いた囲いわなによるニホンジカ、イノシシの捕獲効率の向上. 第 29 回日本霊長類学会・日本哺乳類学会 2013 年度合同大会. セッション ID: B2-2. P.87.  
 環境省 (2017) 平成 28 年度大台ヶ原ニホンジカ個体数調整業務報告書

### 3. 捕獲個体調査

捕獲個体数、捕獲位置、捕獲個体の性、外部計測値、体重の記録を行い、捕獲個体から下顎、生殖器を収集した。このうち、性別、年齢区分、栄養状態、妊娠・泌乳状態を分析した。

また、遺伝子解析用サンプルとして筋肉片を採取し、将来分析のための試料として保存した。

令和2年度版 わな管理表

設置位置 番号	設置町	わなを設置していた期間		わなの設置数		シカの捕獲	捕獲個体番号	備考	記入者名 ( )
		開始日	終了日	箱わな	足くりわな				
1	誓多林	8/2	10/30	1		10/10	⑤	10/30に6に移設	
2	誓多林	8/3	9/5		5			9/5に2基を4へ移設	
3	須山	8/7	12/10	1		9/23,12/10	9/23⑥,12/10⑩	12/10に撤去	
4	茗荷	9/5	10/10		2	10/10	⑦	10/10に撤去	
5	誓多林	9/5	1/15		3				
6	誓多林	10/30	1/15	1		11/7	⑧		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>設置わなの一部を移設した場合でも、新たな設置位置番号を設ける。 この記入例の場合は、2基移設、3基そのままなので、移設したものと、そのままのものと分けて記入する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>設置位置番号は図面と整合する ように記入する</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>複数個体捕獲されたわなは、日付と捕獲個体番号を記入する</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>わなの移設、撤去に関する情報その他特記事項を記入</p> </div>									
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; display: inline-block;"> <h2 style="color: red; margin: 0;">記入例</h2> </div>									

1. わなの所有者または捕獲作業実施者が記入してください。
2. わなを別の場所に移設したら、新しい欄に、新たな設置位置番号として記入してください。
3. 図面に記入する設置位置番号と整合をとってください。